

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
ブリーダーズゴールドカップ	2018/8/16	JpnIII	門別	2000m	スローペース	良	能力比較

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	ソーディスイズラヴ	牝4	55	永島	バトルブラン	ミスプロ系	フジキセキ	サンデー系	D	C	D	D	D	D		
2	2	フォンターナリーリ	牝5	55	モレイラ	クロフネ	ノーザン系	エリシオ	ノーザン系	A	A	B	B	A	B	◎	
	3	アップトゥユー	牝4	55	阿部	サウスヴィグラス	ミスプロ系	スマートボーイ	ノーザン系	D	B	D	B	C	C		
3	4	タイムビヨンド	牝6	55	五十嵐	タイムパラドックス	ロベルト系	カコイーシーズ	アリダー系	D	B	B	B	C	C		
	5	クインマンボ	牝4	57	ルメール	マンハッタンカフェ	サンデー系	シンボリクリスエス	ロベルト系	A	A	B	B	A	B	○	
4	6	プリンシアコメータ	牝5	56	戸崎	スパイクユール	サンデー系	アジュディケーティング	ノーザン系	B	A	B	A	A	B	▲	
	7	ノーブルサファイア	牝4	56	服部	サウスヴィグラス	ミスプロ系	ダンスインザダーク	サンデー系	D	A	C	D	C	C		
5	8	クロスウィンド	牝3	55	坂下	ヴァーミリアン	ミスプロ系	アグネスデジタル	ミスプロ系	D	C	C	C	C	C		
	9	ブランシェクール	牝5	55	御神本	ダイワメジャー	サンデー系	クロフネ	ノーザン系	C	A	B	C	B	B	△1	
6	10	ジュンアイノキミ	牝4	55	石川優	セイントアレックス	ミスプロ系	カリスマティック	ノーザン系	D	B	D	D	C	C		
	11	ラビットラン	牝4	57	Mデムーロ	Tapit	ナスルーラ系	Dixieland Band	ノーザン系	B	A	C	C	B	C	△2	
7	12	ハービンマオ	牝3	55	松岡	ハービンジャー	ノーザン系	ゴールドアリュール	サンデー系	C	B	B	C	B	C	△3	
	13	ラインハート	牝7	55	笹川	ステイゴールド	サンデー系	クロフネ	ノーザン系	C	B	C	C	C	B	×1	
8	14	アルティマウェボン	牝5	55	井上	ヨハネスブルグ	ノーザン系	アグネスタキオン	サンデー系	D	B	D	D	D	D		
	15	クオリティストार्ट	牝4	55	桑村	ダノンシャンティ	サンデー系	Fly Till Dawn	ハンプトン系	D	A	D	D	C	C		

隊列図	見解	ラップタイム
アップ ブリン タイム ラビッ クイー フォン ハービ ブラン クロス ライン ジュン ノーブ クオリ アルテ ソーデ スローペース	<p>ブリーダーズゴールドカップは2014年から牝馬限定のダートグレードとして生まれ変わったレース。過去4年の結果を振り返ると、昨年こそ伏兵マイティティイーが逃げ切って中波乱だったが、14~16年はガチガチの決着。門別は地方競馬の中で砂厚が12cmと深く（J R Aは全场9cm）、中距離戦になると完全なる消耗戦、ポテンシャル勝負になるので、実力のある人気馬が結果を残すことが多いのだろう。今年は能力だけなら上位2頭が抜けているはず。直線は一騎打ちの様相になると見た。それでは予想にいきましょう。</p> <p>本命はフォンターナリーリの重賞初制覇になりそうだ。春終了後のnoteのコラムでヒラボクラターシュと並んで夏に出世濃厚な1頭として取り上げた馬。圧巻だったのは前走東大路ステークスのパフォーマンス。前半1000m通過60.4秒のハイペースの中、正攻法かつ早めに動いて押し切り勝ち。ただただ強い一言で間違いなく重賞級の器と判断していい。（以下省略）</p>	回顧 次走狙い馬

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	ソーディスイズラブ		南関東のC1で全く通用しなかった馬。北海道に移籍後も低迷しており、ダートグレードでは回ってくるだけで終わるだろう。		
2	2	フォンターナリーリ	◎	春終了後のnoteのコラムでヒラボクラターシュと並んで夏に出世濃厚な1頭として取り上げた馬。圧巻だったのは前走東大路ステークスのパフォーマンス。前半1000m通過60.4秒のハイペースの中、正攻法かつ早めに動いて押し切り勝ち。ただただ強い一言で間違いなく重賞級の器と判断していい。		
	3	アップトゥユー		2走前のヒダカソウカップではJRA500万下止まりのディナスティアに完敗し、前走ノースクイーンカップではダートグレードで苦戦しているジュエルクイーンに完敗。JRA勢相手では荷が重い。		
3	4	タイムビヨンド		4走前のクイーン賞では5着に健闘するも、今回は当時完敗したプリンシアコメータ、ラインハートが出走。掲示板までが精いっぱいだろう。		
	5	クイーンマンボ	○	昨年のプリーダースゴールドカップでは2着に敗れたが、勝ち馬を楽に行かせ過ぎたことで捕まえ切れなかっただけ。昨年のレディスプレリウドの圧勝劇を考えても、現役の牝馬ダート路線ではトップクラスの能力の持ち主。フォンターナリーリ以外には負けないうだろう。		
4	6	プリンシアコメータ	▲	メンバーを見渡すと逃げ、先行勢が明らかに手薄で、特にJRA勢はほとんど差し、追い込みタイプ。その中で唯一前に行けるのが本馬で、いかにも展開を味方につけての粘り込みがありそう。前走平安ステークスは牡馬相手なので大敗も仕方なし。牝馬限定のダートグレードに戻れば、巻き返してくるはずだ。		
	7	ノーブルサファイア		前走ノースクイーンカップではジュエルクイーン、アップトゥユーに完敗。ダートグレードで通用するレベルではない。		
5	8	クロスウィンド		王冠賞勝ち馬も、門別の3歳クラシック路線は有力馬が各地に分散した後に行われるので、そもそものレベルが低い。持ち時計的にも苦戦必至。		
	9	ブランシェクール	△1	パワーを前面に押し出して走るので、砂の深い門別の中距離戦がいかにも合いそう。展開が向くかは微妙なところだが、TCK女王盃のようにロングスパートを打てるので、ペース次第では自分から動くこともできるだろう。継続して御神本騎手が騎乗できるのも強み。		
6	10	ジュンアイノキミ		昨年のプリーダースゴールドカップでは5着に健闘するも、その後が鳴かず飛ばず。今年は掲示板内も難しいはず。		
	11	ラビットラン	△2	スタミナが問われる門別の中距離への適性に疑問。前走スパーキングレディーカップとは求められる適性が全く異なるので、前走の一戦だけで人気を集めるなら軽視する方向で考えたい。		
7	12	ハービンマオ	△3	適性でいえば、ラビットランよりも上だが、関東オークスのレベルに疑問が残る。3歳勢がよく好走するレースではあるが、ゴールドパテックがここで通用するかと言われれば微妙で、上位勢の凡走待ちになるのではないかな。		
	13	ラインハート	×1	近走は明らかにトーンダウンしており、年齢的にも変わり身があるかは微妙だが、今年のTCK女王盃、エンプレス杯ではJRA勢と互角の走りを披露。当時並みのパフォーマンスを出せれば、馬券圏内のチャンスはある。		
8	14	アルティマウエボン		JRA時代の実績からもっと走っても良さそうだが、現実的に近2走はヒダカソウカップ4着、ノースクイーンカップ6着と上位争い出来ず。ダートグレードでは荷が重い。		
	15	クオリティストार्ट		前走ノースクイーンカップは勝ち馬ジュエルクイーンから4.1秒も離されての8着。2000mは距離が長そう。		